

平成 26 年 度 (2014)

慶應義塾大学入学試験問題

商 学 部

世 界 史

- 注 意
1. 受験番号と氏名は、解答用紙 A (マークシート) と解答用紙 B のそれぞれ所定の欄に必ず記入すること。さらに、解答用紙 A (マークシート) の受験番号欄をマークすること。
 2. 解答は、必ず指定された解答用紙の所定の欄に記入ないしマークすること。解答欄外の余白および採点欄には一切記入してはならない。
 3. 解答用紙 A (マークシート) への記入に先立って、用紙上に記載された注意事項を必ず読むこと。
 4. 解答用紙 A (マークシート) の解答欄にマークするときには、すべて HB の黒鉛筆を使用し、また、次の解答例に従うこと。
(解答例)

(12)

 と表示のある問いに対して、3 と解答する場合は、右に示すように解答欄

(12)

 の ③ にマークすること。
なお、2 桁の数字の場合には、以下のようにマークすること。
例えば、空欄

(19)

(20)

 の解答が 3 6 の場合、解答欄

(19)

 の ③ にマークし、解答欄

(20)

 の ⑥ にマークする。
 5. 問題用紙は下書きに用いてよろしい。
 6. この冊子の総ページ数は 8 ページである。

(12)

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧

試験開始の合図とともに全てのページが揃っているか確認してください。ページが抜けていたり重複するページがあったら直ちに監督者に申し出てください。

《指示があるまで開かないこと》

I. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

2013年9月、2020年の夏季オリンピック（五輪）開催地が東京に決定された。最終選考まで残った^(a)イスタンブールも、ヨーロッパとアジアにまたがってイスラーム文化圏で行われる五輪候補地という点で注目されていた。その特徴的な歴史を、ローマ帝国の時代にまでさかのぼってみよう。

330年、ローマ帝国のコンスタンティヌス帝が、コンスタンティノープル（ (1) (2) から改称）への遷都を行ったのは、帝国支配を安定させるためであった。^(b)コンスタンティヌス帝は、また、 (3) (4) 帝（在位284-305）時代まで迫害されていたキリスト教を公認して信徒の支持を求め、さらに、官僚制度の確立、身分・職業の固定化によって帝国を支配する体制を築いた。しかしながら、このような措置にもかかわらず、 (5) (6) 年に始まる^(c)ゲルマン人の大移動もあって、帝国の衰退は進行した。

(7) (8) 年、ローマ帝国は東西に分裂し、その後、西ローマ帝国は、ゲルマン人傭兵隊長 (9) (10) によって滅ぼされてしまう。だが、コンスタンティノープルを首都とする東ローマ帝国は、6世紀の (11) (12) 帝（在位527-565）のときに、北アフリカの (13) (14) 王国やイタリアの (15) (16) 王国を滅ぼして旧ローマ帝国の領土をほぼ回復し、地中海を内海とする帝国を復活させた。 (11) (12) 帝が、『ローマ法大全』の編纂を法学者に命じ、また、 (17) (18) 産業の振興を図る中、首都コンスタンティノープルは、東西交通の要衝、また、ヨーロッパの中心的な貿易都市となって栄えることになる。

宗教面でも、西ローマ帝国の滅亡やゲルマン民族大移動による混乱の中で、東ローマ帝国の皇帝を首長とするコンスタンティノープルの教会が一時は優勢となった。だが、 (11) (12) 帝の死後、東ローマ帝国は、6世紀に北イタリアを奪われて (19) (20) 王国を建国されたり、7世紀にイスラム教徒によって穀倉地帯であったシリアやエジプトを奪われたりして、帝国の領土は縮小していった。ヘラクレイオス1世（在位610-641）は、 (21) (22) 制をしいてイスラーム勢力に対抗したが、その後も、 (23) (24) が開いた (25) (26) 朝（661-750）の軍隊は、首都コンスタンティノープルを包囲攻撃している。結局、東ローマ帝国がイスラーム軍と戦って勝利をおさめ、徐々に国力を回復していくのは、皇帝が (27) (28) （在位717-741）になってからであった。

(27) (28) は、726年に聖像（崇拜）禁止令を出したが、これについては、聖像を必要としたローマ教会と対立することになる。その後、ローマ教会は、 (29) (30) 王国との提携を強化してコンスタンティノープルの教会への従属から脱し、11世紀には東西教会は完全に分離する。この間、東ローマ帝国は9世紀後半から始まる (31) (32) 朝（867-1057）時代に帝国中期の盛期を迎え、コンスタンティノープルも多くの人口を抱える大都市として繁栄した。

しかしながら、11世紀後半、 (33) (34) 朝（1038-1194）による^(d)小アジアへの侵入を1つの契機として十字軍が結成されると、13世紀、^(e)コンスタンティノープルは十字軍によって占領され、 (35) (36) 帝国がたてられることになる。その後、東ローマ帝国は再興されたが国力は戻らず、^(f)ついに1453年、 (37) (38) 帝国の包囲攻撃によってコンスタンティノープルが陥落し、東ローマ帝国は滅亡した。このとき、 (37) (38) 帝国がこの地に遷都した際につけられたのが、イスタンブールという名称である。なお、イスタンブールには、オスマン帝国になってからモスクとして使用される (39) (40) が存在するが、これは、元々、 (11) (12) 帝が教会として建立したものである。

問1 文中の空欄 (1) (2) ～ (39) (40) にあてはまる最も適切な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A（マークシート）の解答欄 (1) ～ (40) にマークしなさい。

- | | | | |
|-------------------------|------------------------|-------------|------------|
| 11 375 | 12 378 | 13 395 | 14 476 |
| 15 アッバース | 16 アレクシオス1世 | 17 イェルサレム | 18 イクター |
| 19 ヴァンダル | 20 ウマイヤ | 21 オウィディウス | 22 オスマン |
| 23 オドアケル | 24 カロリング | 25 絹織物 | 26 軍管区（テマ） |
| 27 郡国 | 28 毛織物 | 29 ササン | |
| 30 サン＝ヴィターレ聖堂（聖ヴィターレ聖堂） | 31 スレイマン＝モスク | | |
| 32 セルジューク | 33 ディオクレティアヌス | 34 ティムール | |
| 35 西ゴート | 36 ハギア＝ソフィア聖堂（聖ソフィア聖堂） | | |
| 37 ハールーン＝アラッシード | 38 東ゴート | 39 ビザンティウム | |
| 40 フランク | 41 ブルグント | 42 プロノイア | 43 ヘラクレア |
| 44 マクシミアヌス | 45 マケドニア | 46 ムアーウィヤ | 47 ムハンマド |
| 48 綿織物 | 49 モンゴル | 50 ユスティニアヌス | 51 ラテン |
| 52 ランゴバルド（ロンバルド） | 53 レオン（レオ）3世 | | |

問2 下線部（a）に関連して、次の問いに答えなさい。第一次エジプト＝トルコ戦争の際に、ロシアは2つの海峡の通行権を獲得した。ひとつはダーダネルス海峡、もう一つは、この都市をヨーロッパとアジアに分かつ海峡である。この海峡の名前は何か、解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問3 下線部（b）に関連して、次の問いに答えなさい。（ア）迫害を受けたキリスト教徒が礼拝所として利用した地下墓地をカタカナで何というか、（イ）キリスト教を公認する会議が開催された都市の名前は何か、（ウ）コンスタンティヌス帝によって開催された、キリスト教会初の公会議を何とよぶか、（エ）三位一体説の「三位」とは何を指すか。それぞれ、解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問4 下線部（c）に関連して、移動の原因をもたらした遊牧騎馬民族の名前は何か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問5 下線部（d）に関連して、次の問いに答えなさい。（ア）布教のためのイスラーム教徒による戦い（努力）を、カタカナで何というか、（イ）十字軍の派遣を提唱した教皇の名前は何か、（ウ）何という会議で提唱したか。それぞれ、解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問6 下線部（e）に関連して、次の問いに答えなさい。（ア）この十字軍は、第何回の十字軍か、（イ）このとき主導権を握ったのは、何という都市か。それぞれ、解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問7 下線部（f）に関連して、このときのスルタンの名前は何か。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

II. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

今日、中国の沿岸部、とりわけ長江下流域の産業発展には目覚ましいものがある。ここで、その発展の歴史について穀物生産、商品作物や手工業、商業・輸送業・金融業、海外貿易などの視点から概観してみよう。

まず、穀物生産について、長江下流域が大穀倉地帯になったのは宋代以降のことである。江南に東晋が成立するころから、華北に住んでいた多くの漢人が戦乱をさけてこの地に移り住んだ。そのため、宋代には、華北の水利や土木の技術が江南に持ち込まれた。形勢戸と呼ばれる (41) (42) 層が佃戸と呼ばれる (43) (44) を使い、水田の造成を進めた。11世紀頃には、(45) (46) から伝えられた新品種が取り入れられ、米収穫の安定化がはかられた。さらに、新しい栽培技術の開発と普及が進み、この地域は一大穀倉地帯として発展した。一方、(a) 明代になって、重い税金や小作料が課せられると、その支払のために農民たちは副業に励むようになり、水田が次第に減っていった。その結果、明末以降、穀倉地帯は「(47) (48) 熟すれば天下足る」と言われたように別地域に移った。

次に、この地域においては、商品作物関連の特産品の生産も拡大した。宋代には、江南や四川などの地域で (49) (50) の栽培が広がり、周辺の諸民族で (49) (50) を楽しむ風習が普及したこともあって、(49) (50) は重要な輸出品となった。商品農産物としてのトウモロコシや (51) (52) は、もともと (53) (54) 大陸から輸入された作物であったが、17世紀頃から、トウモロコシは華北一帯、(51) (52) は江南でひろく栽培されるようになった。また、農産物の栽培にとどまらず、織物や陶磁器、漆器などの手工業も目覚ましい発展をとげた。代表的なものに、宋代以降に発達し有名になった (55) (56) の陶磁器、江南辺りの綿織物や絹織物などがある。ちなみに、(55) (56) の青花(染付)の原料は (57) (58) からもたらされたコバルトであった。(b) これらの産品は、国内の消費にとどまらず、海外にもさかんに輸出された。

さらに、農業と手工業の発展を支える商業、輸送業、金融業も沿岸部が先行した。宋代では、(c) 商人や手工業者などの同業組合が組織され、相互の利益がはかられるようになった。貨幣としてはこの時代、一般的に (59) (60) が使用された。遠隔地間の取引も行われ、手形として生まれた父子・会子は後に (61) (62) として使われるようになった。元の時代、商業に強い関心を持っていた統治者たちは、江南の穀物などを首都 (63) (64) に輸送するルートを整備するために、(65) (66) の時代に建設された大運河の改修と増設を進めた。明代の中期以降、遠隔地取引において、特に中心的な存在であったのが山西商人と徽州商人であった。そのなかには、政府から (67) (68) の専売権を保証され、官僚と結んで政府の事業を行い、巨大な富を築いていった者もいた。

海外との貿易についても長江下流域が活発であった。唐代には、貿易の窓口として (69) (70) に公的な役所が開かれていたが、宋代になるとほかの場所でも開かれるようになった。それらの地域を中心に海港都市がつくられ、ムスリム商人の来航もさかんになり、(71) (72) 貿易が栄えた。元代では、商業が重視され、(71) (72) 貿易がさらに発展した。14世紀後半、倭寇の活動と、交易自由化がもたらす国内経済の動揺に悩まされた明の (73) (74) は、東南沿海では (75) (76) の貿易を禁止し、朝貢国とだけ外交関係を結ぶ海禁政策をとるようになった。さらに、明は朝貢貿易を強化しようとし、15世紀のはじめ、(77) (78) の率いる大艦隊を数回にわたって東南アジアなどの国々に派遣した。しかし、貿易の利益を求める人々は、明による統制を打破しようとする動きを活発化させ、

16世紀後半、明は統制を緩めざるを得なくなった。

宋代から発展の中心となっていた長江下流域の経済は、清朝の前半にひとつのピークを迎えるに至った。

問1 文中の空欄 (41) (42) ～ (77) (78) にあてはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A（マークシート）の解答欄 (41) ～ (78) にマークしなさい。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------------|
| 11 アメリカ | 12 イタリア | 13 イラン | 14 ヴェトナム（ベトナム） |
| 15 雲南 | 16 永楽帝 | 17 外国人 | 18 開封 |
| 19 華南 | 20 漢 | 21 貴族 | 22 栗 |
| 23 景德鎮 | 24 建文帝 | 25 広州 | 26 交鈔 |
| 27 香辛料 | 28 洪武帝 | 29 湖広 | 30 小作農 |
| 31 五銖錢 | 32 コーヒー豆 | 33 サツマイモ | 34 砂糖 |
| 35 塩 | 36 地主 | 37 紙幣 | 38 上海 |
| 39 隋 | 40 蘇州 | 41 タイ | 42 大都 |
| 43 大理 | 44 茶 | 45 長安 | 46 鄭成功 |
| 47 鄭和 | 48 唐 | 49 東海 | 50 銅錢 |
| 51 東方 | 52 奴隸 | 53 南海 | 54 日本 |
| 55 飛錢 | 56 富豪 | 57 武将 | 58 フランス |
| 59 民間人 | 60 綿花 | 61 遊牧民 | 62 ユーラシア |
| 63 ヨーロッパ | 64 林則徐 | | |

問2 下線部（a）に関連して、次の問いに答えなさい。（ア）明代に、租税の徴収や治安管理の責任を住民に負わせるために連帯責任制度が導入された。この制度の名称を漢字で何というか。（イ）明代に、まず江南地域で施行され、後に全国的に普及した税制がある。この税制を漢字で何というか。それぞれ、解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問3 下線部（b）に関連して、次の問いに答えなさい。（ア）当時生産された陶磁器のなか、白磁に赤・緑・黄・黒・青などの釉（うわぐすり）で文様を描いた陶磁器を漢字で何というか。（イ）明の中期以降、中国産品の代価として、日本から中国に大量に輸出されたものを漢字3文字で何というか。（ウ）この時期、長江下流域でマニファクチュアと異なる生産形態がさかんであった。この生産形態を何というか。それぞれ、解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問4 下線部（c）に関連して、次の問いに答えなさい。宋代に存在した（ア）商人の同業者組合を何というか、（イ）手工業者の同業者組合を何というか。（ウ）この時代、城外の水陸交通の要地や寺の門前に生まれた市場を何というか、（エ）そうした市場から発展したものが多き地方の小都市を何というか。それぞれ漢字で、解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

Ⅲ. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

歴史家マクニールは、『世界史』の中で言う。「西欧型社会がその領域を拡大し続けていくのを支え、同時にそれを促したのは、西欧文明の心臓地帯におこった真に革命的な変化であった。ことに18世紀後半にめざましくなった技術改良の波は、1880年代にイギリスのある歴史家が「産業革命」と名づけて以来、一般にもそう呼ばれるようになった。それに加えて、西欧諸国の政府と国民は広範囲におよぶ国内の再組織化を経験した。これらの変革は「民主革命」ということばで要約することができる」。

産業革命にはふたつの段階があった。第一段階の主役はイギリスである。第1次産業革命の初期、つまり18世紀の技術革新は、繊維産業の分野を中心に展開された。たとえば、(79) (80) が改良を加えた蒸気機関を利用した (81) (82) の力織機の発明などである。イギリス綿織物産業の綿花は、はじめはカリブ海地域から、ついでアメリカ南部の奴隷制プランテーションからもたらされた。やがて世界最大の綿織物工業地帯であった (83) (84) も綿花の生産地となった。

18世紀後半の第1次産業革命時の動力源は石炭と蒸気であったが、19世紀後半に起こった第2次産業革命時の動力源は石油と電気になる。第2次産業革命の中での重化学工業の誕生により、それまでの個人による発明は企業による組織的な研究にとってかわられることになり、こうした組織的研究を得意とした国は (85) (86) であった。マクニールによれば、この国は高等教育制度が著しく発達し、高度な教育を受けた優秀な理論家を多く輩出しており、第一次世界大戦が始まるまでには多数の工業用化学製品の唯一の供給国となった。

第1次産業革命期には、大規模な機械制工場が出現し、工場を経営する (87) (88) 家が社会的地位を高めた。一方、賃金労働者という階級も生まれ、彼らは_(a)都市に集まり、そこでは貧困の問題が顕著に現れ、この問題を解決しようとする (89) (90) 思想がさまざまなかたちで生まれた。1848年に (91) (92) とナショナリズム運動が結びついて、西欧各地で諸国民の春と呼ばれた群集蜂起があったが鎮圧された。その後、労働者の生活を改善するためのさまざまな_(b)社会的装置が考え出され、初期の産業社会にあふれていた苦痛や醜悪さは緩和されていった。

大規模な設備投資を必要とした第2次産業革命期には (93) (94) の役割が増大した。並行して、企業の集中も進み、資本主義は自由競争の時代から (95) (96) 主義の時代に入っていった。

第1次、第2次産業革命の共通した特徴に取引先の範囲の拡張があった。これに寄与したのは、(97) (98) が実用化した蒸気船や、帆船の改良、(99) (100) が実用化に成功した蒸気機関車である。海上輸送は、1869年開通の (101) (102) 運河、1914年開通の (103) (104) 運河により飛躍的に拡大した。

民主革命は、アメリカ合衆国の独立を援助して、絶望的な破産状態に追い込まれたフランスから始まった。フランスで必要とされた改革の一つに (105) (106) があった。しかし、それも失敗に終わり、1789年、国王はヴェルサイユに三部会を招集したが、第三身分代表が三部会より分離して (107) (108) が結成され、フランス革命に入っていくことになる。

1802年に (109) (110) を結んで第2回対仏大同盟を解消させたフランスでは、1804年に (111) (112) が制定される。ヨーロッパ大陸諸国に進出していたフランスは、(111) (112) などを通じて、フランス革命の原理をヨーロッパ各地に浸透させた。フランス軍が駐留したプロイセンでは、(113) (114) が国民意識を呼び覚ます講演を行い、政府内部でも首相 (115) (116) らが

諸制度の改革を進めた。プロイセンに限らず、自らも強力な国家を作りあげる必要に迫られる地域が出現し、そこでは、特権階級だけによる国家ではなく、(117) (118) を作るという思想の高揚が必要となった。その際、自由と平等というフランス革命の基本となった考え方を取り入れて、社会と政治を再組織化する民主革命を進めることが不可欠であった。

そしてマクニールは言う。「民主革命は、産業革命のまことの双生児だといえる。(中略) このふたつの革命が結びついた結果、西欧の生活様式は、(c) 他の文明世界のそれをはるかにしのぐ力と富を獲得するにいたった。他の文明世界の国々が、西欧の浸食に対して抵抗することはもはや不可能となった」と。

問1 文中の空欄 (79) (80) ~ (117) (118) にあてはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A(マークシート)の解答欄 (79) ~ (118) にマークしなさい。

- | | | | |
|-----------|-----------|-------------|--------------|
| 11 アークライト | 12 アフリカ | 13 アーヘンの和約 | 14 アミアンの和約 |
| 15 イタリア | 16 インド | 17 インドネシア | 18 革命暦 |
| 19 カートライト | 20 規制改革 | 21 キール | 22 金融改革 |
| 23 金融資本 | 24 公安委員会 | 25 国民議会 | 26 国民公会 |
| 27 国民国家 | 28 クロンプトン | 29 財政改革 | 30 産業資本 |
| 31 社会主義 | 32 社団国家 | 33 自由主義 | 34 シュタイン |
| 35 商業革命 | 36 商業資本 | 37 スエズ | 38 スティーヴンソン |
| 39 大陸封鎖令 | 40 ダービー | 41 中国 | 42 ティルジットの和約 |
| 43 ドイツ | 44 独占資本 | 45 ナポレオン法典 | 46 農業革命 |
| 47 ハーグリース | 48 パナマ | 49 フィヒテ | 50 福祉国家 |
| 51 フルトン | 52 ベルギー | 53 モルトケ | 54 ライン同盟 |
| 55 ラサール | 56 流通革命 | 57 レッセ・フェール | 58 ワット |

問2 下線部(a)に関連して、当時マンチェスターが綿織物産業の中心都市として栄えた。なぜ、内陸であるこの地が中心地となったのか。「奴隷貿易」という用語を用いて、解答用紙Bの所定の欄に30字以内で記入しなさい。

問3 下線部(b)に関連して、プロイセンのビスマルクが、労働者の歓心を得て彼らに国家への帰属心を抱かせようとして1880年代に整備していった3つの制度の総称を何と呼ぶか。解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問4 下線部(c)に関連して、民主革命を経た国家の力の源に徴兵制がある。フランスに徴兵制を採用させるきっかけとなる第1次対仏大同盟を主導したイギリスの首相の名前を、解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

〈以下余白〉